

イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校春期英語研修について

自然科学研究科が主催しているイリノイ大学アーバナ・シャンペーン校の英語研修は、世界でも有数の研究大学で行われ、教授陣も一流で質の高いプログラムです。英語学習のみならず様々な交流機会を設けている点も魅力の一つです。2012年度の夏期に引き続いて、春期にも開催を予定しています。但し、春期研修（2013年2月中旬 から3月末までを予定）の参加資格は、自然系の学生を中心に、必要性を認められる新潟大学生を選考の上、派遣します。（ただし、3月に卒業する大学院生、学部学生は、所属部局に関わらず対象外とします。）また、支給条件を満たす場合に、日本学生支援機構からの奨学金を一律16万円支給できることになりました。

選考は、派遣選考申込書の他に、志望動機や、現地での英語授業外の活動予定計画案を提出したうえで、プログラム企画担当教員の面接により決定します。この派遣選考は、奨学金受給選考も兼ねます。1か月半程度の留学期間に何をしたいのかという目的意識が明確な学生の参加を歓迎します。逆に、TOEIC や TOEFL のスコアが低いからというだけで、初めから諦めている学生、あるいはTOEICなどの得点成績だけは高いという学生は、お断りする場合があります。自分で、自身の将来の扉を開けてみようという意欲のある学生を歓迎します。

派遣期間は、現在のところ、2月18日にプログラムを開始し、3月29日までをプログラム期間とする予定です。（渡航料金の関係で、2月15日をプログラム開始期日とする可能性もあり。）最少催行人数は8名ですが、最大14名前後まで、選考結果に基づき派遣する予定です。

プログラムについてですが、アカデミックな内容のプレゼンテーションができるようになることを最終課題（修了試験として実施します）に、発音・アクセント・リダクション、プレゼンテーション技法、アメリカ文化コミュニケーション、英語環境下での大学での学習・研究に必要な英語能力やコミュニケーション能力、アカデミックな内容に関する作文能力技法・能力の強化を目標としたカリキュラムを組みます。また、授業の他にアメリカ人学生によるコンバセーション・パートナーが付きます。その他に、シカゴへの Excursion 等の他、イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校で日本語を学習している上級クラスに参加し、優秀なイリノイ大学学生との交流機会も設けています。

渡航交通費用、及び、学生査証や種々手続に関わる費用を除く、プログラム参加費用ですが、授業料については、新潟大学からの派遣者数が決定した段階で確定します（プログ

ラム・授業料全体を参加者数で割るため。) 昨年度の例ですと、一人当たりの授業料は約 1,700 ドル (1 ドル 87 円換算で 15 万円弱程度) でした。授業料には、プログラム期間中に
行われたシカゴへの Excursion 等を含んでいました。その他、大学施設利用費一人 100 ドル、大学宿舎使用料約 800 ドル (光熱費込み、家具付き) が費用として課されましたが、
今年度、新潟大学学生の共通した傾向のある英語の弱点を補強する授業科目の増設、また、
人気や評価の高い科目授業数を増やすことを協議中ですので、授業料については、最終的に 15 万円から 25 万円程度の範囲になることを考えておいてください (プログラム総授業
時間数、参加人数、為替相場によって変動するためです)。尚、冒頭の通り、本プログラム
に派遣が決まった学生には、支給条件を満たす場合に、日本学生支援機構からの奨学金を
一律 16 万円支給できることになりました。

応募希望者には、下記の要領で説明会を行います。

11 月 15 日 (木) の午後 1 時 15 分から、自然科学研究科管理共通棟 2 F 小会議室

11 月 16 日 (金) 午後 12 時 00 分から、総合教育研究棟 B-352

11 月 19 日 (月) 午後 12 時 00 分から、総合教育研究棟 B-253

(同内容ですので、一方だけで構いません)

これに参加するか、プログラム企画担当教員 (自然科学研究科・特任准教授・神原) に個別にコンタクトし、説明を受けてください。

尚、出発までに、適切な英文電子メールの書き方、危機管理についてなどのワークショップを数回ほど受講し、派遣可能なレベルに到達することを、条件付けます。

問い合わせ先

自然科学研究科学務係 025-262-6109・6332

自然科学研究科・特任准教授 神原 信幸: E メール・アドレス kambara@ge.niigata-u.ac.jp